

日本共産党

東日本大震災**救援募金**のお願い

石巻市へ

ボランティア募集、支援物資も

ボランティア **第6次**

この間の救援募金

190万円

米や野菜を購入し被災地に直接お届けしました。（10月30日現在）

お預かりした、米、布団、コート、セーター、日用品、家電製品など現地に届けました。ほとんど配布できました。ありがとうございました

（食器類は輸送時破損の心配があり遠慮します）

真冬を控え、冬物物資が
求められています。

コート、セーター、毛布・布団
お米 強い要望です



日程 12月8日（木）夜 発
12月11日（日）夜 着

募金、物資提供など
ご連絡いただければ
お伺いします。

港地区委員会 TEL 3455-0051

FAX 3455-0054

メール jcp_minato@ybb.ne.jp

港区議団 TEL 3578-2945

FAX 3578-2947

メール mail@jcp-minatokugidan.gr.jp

みなと民報

2011年11月号外 日本共産党港地区委員会は東日本大震災へのボランティア参加を呼びかけると発表しました。発行 みなと民報社/海岸2-4-12/責任者/栗橋伸次郎

■お問い合わせ
日本共産党港地区委員会
3455-0051

日本共産党 第5次震災ボランティア

活動報告 石巻

日本共産党港地区委員会は、10月27日から30日まで石巻市の「日本共産党 震災・救援センター」を拠点として、6名が第5次ボランティア活動を行いました。

港区民から沢山の支援物資が寄せられ、64箱のダンボールを宅配便で送りました。その他に、軽トラック1台分の米、衣類、冷蔵庫、ストーブ、毛布などなどを27日の深夜港区を出発して、28日の朝4時半に石巻到着です。

28日は向陽町仮設住宅へお届けです。他のボランティアスタッフ総勢25ほどで活動です。

とん汁250食 一滴残さず完食

私たち港は、とん汁を250食作りました。大好評で、一滴も残さずに完食です。心も体も温まってもらいたいとの思いで早朝から準備しました。

現地では「あったまるとん汁」の手作り看板も急ぎよ作りました。大鍋で作ると味がしみ込んでとてもおいしいのです。新生姜を固まりごと入れると、コクとしまりがでてよりいい味になります。小鍋を持参して「家族3人でいただきます」とか、「あったかくておいしい。おかわりいいですか」の声が沢山かかりました。

冬物のコートやセーターが飛ぶように求められています。あつという間になくなります。

真冬までに 2重サッシつくのか

宮城県の仮設住宅は2重サッシがありません。寒い冬を迎える前に設置をとの運動が広がり、付けることになりましたが、12月中旬までに付け終わるかどうかという状況です。

2日目は、大橋の仮設住宅で物資のお届けでした。布団、冬服、食器をトラック

ク4台に積み込んで大移動です。

布団、コート、食器も 飛ぶように

私たちは食器担当でした。軽トラ一台分の食器はさばくのが大変と思いましたが、ほとんど無くなりました。大量の食器を持ち込んだのが功を奏したと思います。

布団も、コートもすぐになくなります。

仮設住宅は、フローリングなので、敷き布団も2枚敷いて暖まってもらいたいですね。

県と国は、最大4人分の布団しか渡しません。5人家族では一人分不足します。

とんでもない対応です。

30日は、女川町、牡鹿半島を回りました。

7ヶ月以上経つのに、女川町では倒れたビルがそのままだったり、牡鹿半島でも、地盤が沈下したままです。

今後の復興方針も定まっていません。

引き続きねばり強い支援が必要だと改めて感じました。



大評判のとん汁



強い要望の冬物衣料



コートなど冬物衣料を持ち込みました



募金を手渡してきました



ビルが横倒しのまま 女川